

添付資料:

「旧友との再会や SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)利用に関する意識調査」レポート
(IHG・ANA・ホテルズグループジャパン、2011年11月実施)

【主な分析結果】

- 20~30代の約3割がフェイスブックなどのソーシャルメディアを通じて旧友と連絡を取った
- 全体の半数近く(41.6%)が、今年、しばらく連絡をとっていなかった友人2,3人と再会。今年再会した「しばらく会っていない」友人とは、1~2年会っていなかったと答えた人が全体の約6割(57.5%)
- 20代の半数近く(45.0%)は、今年、「しばらく会っていない」旧友と連絡を取る機会があり、実際に会った。実際に会う機会は年代が上がるにしたがって減り、40代になると3割弱(27.5%)
- 半数以上(55.0%)が、**実際に会うメリットとして「顔」「表情」「目」を見て話すことを挙げ**、リアルなコミュニケーションが安心感を与えることが分かる
 - ◇ 「顔をみることで安心して会話ができる」「顔つきや体形の変化、話し方でなど健康かどうか、心配事があるのかなどわかる部分が多い」「気持ちが伝わりやすい。顔を見て話ができる分、信頼性が出てくると思う」など
- それ以外の実際会う具体的なメリットとして、楽しい時間の共有、本音の話、文字では表現できないコミュニケーションが挙げられた
 - ◇ 「お酒や食事をして楽しい時間を共有」「聞きづらいことも聞ける」「お互い年をとったことを認識して、自分だけじゃないんだと安心できる」「文章は考えなきゃいけないけど、実際に会えば思ったことが口からすぐ出るから楽」「ネット上は一方向の会話と会話になりやすいが、実際に会うと会話の行き違いや誤解などは格段に減る」など

【調査実施概要】

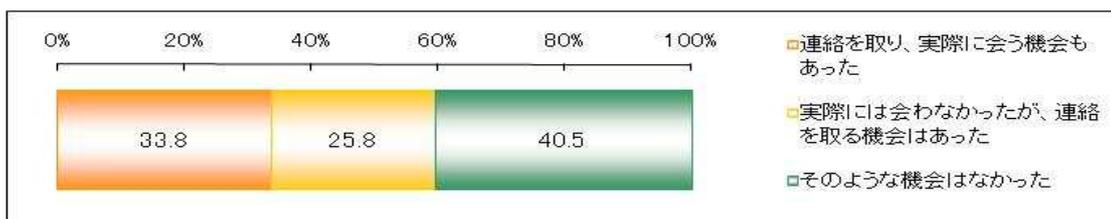
調査方法: 楽天リサーチ、非公開型インターネット調査

調査対象: 25~49才男女 400人

調査日 : 2011年10月31日(月)~11月2日(水)

【調査データ】

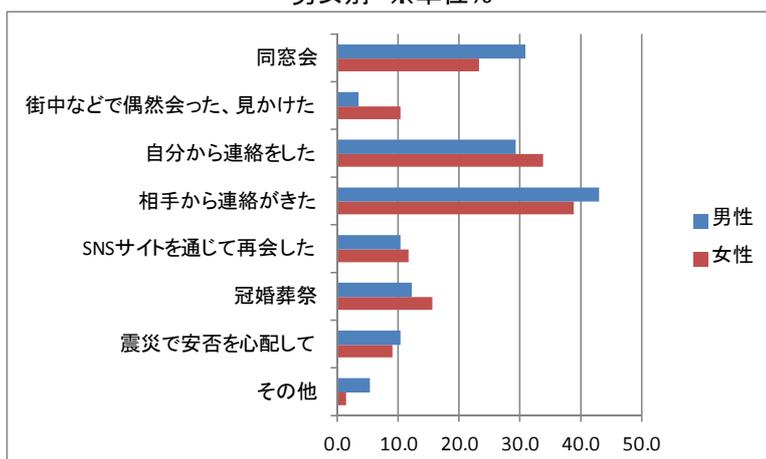
■今年、しばらく連絡をとっていなかった友人と連絡を取る機会がありましたか。



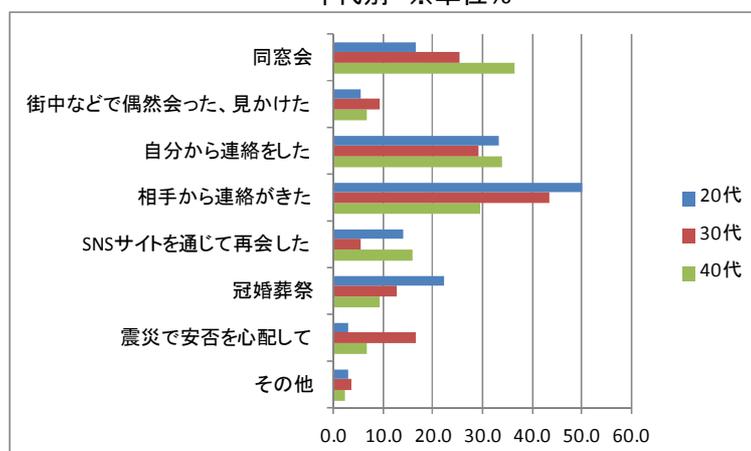
■あなたが友人に会うきっかけとなった出来事は何ですか。(複数回答)

- 1位: 相手から連絡が来た(40.7%)
- 2位: 自分から連絡をした(31.9%)
- 3位: 同窓会(26.7%)、
- 4位: 冠婚葬祭(14.1%)
- 5位: SNSサイトを通じて再開した(11.1%)

男女別 ※単位%



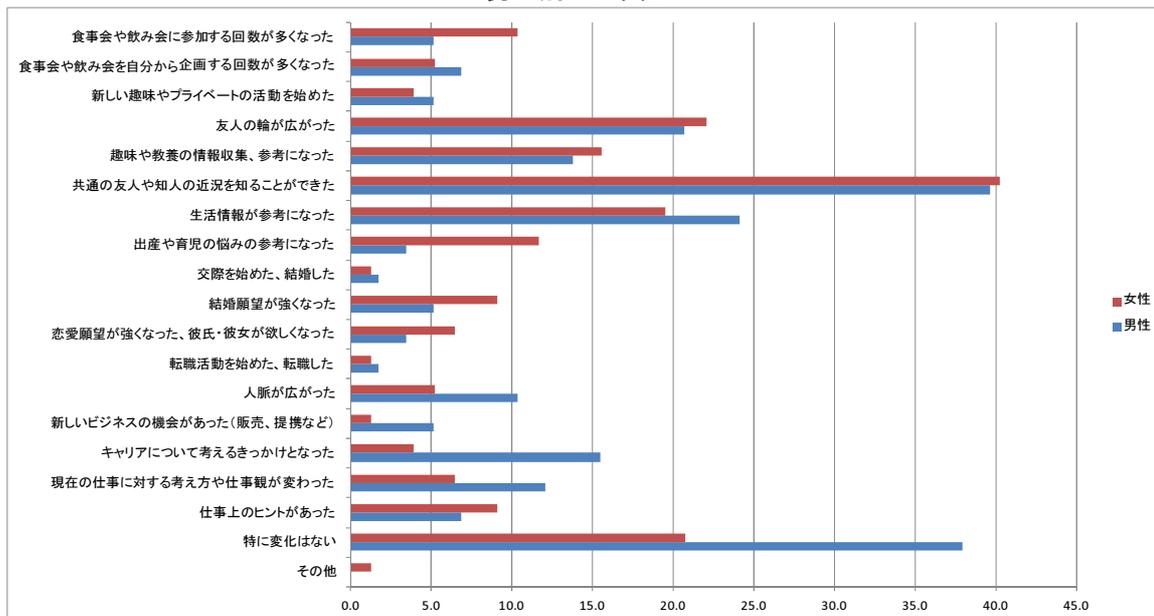
年代別 ※単位%



■旧友と実際に会ったことで、自分の行動にどのような変化やメリットがありましたか。(複数回答)

- 1位: 共通の友人や知人の近況を知ることができた(48.1%)
 - 2位: 生活情報が参考になった(21.5%)、
 - 3位: 趣味や教養の情報収集(18.5%)
 - 4位: 人脈(仕事関係)が広がった(8.1%)
 - 5位: 新しいビジネスの機会があった(4.4%)
- ※5.7%が交際を始めた・結婚した(3.7%)あるいは告白した・プロポーズをした(2.2%)

男女別 ※単位%



年代別 ※単位%

